

事業コード	H21-建-新-02		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(交通安全)		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	歩道設置事業		班 名	道路環境・維持班 (tel) 018-860-2488
路線名等	主要地方道 角館六郷線		担当課長名	小嶋 宣英
箇所名	大仙市太田町太田字伊勢堂		担当者名	主幹兼班長 佐々木 勇
総合計画との関連	政策コード	17	政 策 名	安全・安心で衛生的な生活環境づくり
	施策コード	01	施 策 名	安全・安心な地域づくりの推進
	指標コード	04	施策目標(指標)名	歩道等整備率(累計)

1. 事業の概要

事業期間	H22 ~ H26 (5年)		総事業費	5.3億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	延長 L=377m 幅員 W=9.25m(2.50-0.50-2.75-2.75-0.75)						
事業の立案に至る背景	<p>主要地方道角館六郷線は、県南部の横手市から国道13号を經由し、国道46号の仙北市角館町・田沢湖・乳頭温泉郷等の観光地にアクセスする延長L=20kmの主要幹線道路である。</p> <p>当該区間は小中学校や高校の通学路となっており、また、太田総合支所、郵便局等の公共施設も多く生活道路にもなっているが、歩道が設置されておらず、市道との交差点部も車道幅員W=5.5mと狭く交通事故も16件(H8~H18)発生し、地元から歩道設置および交差点改良の要望がなされている。</p>						
事業目的	歩道の設置および交差点の拡幅により、安全で円滑な交通を確保する。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度以降
	事業費		530,000	15,000	140,000	200,000	175,000
	経費内訳	工事費	65,000				65,000
		用補費	410,000		114,000	192,000	104,000
		その他	55,000	15,000	26,000	8,000	6,000
	財源内訳	国庫補助	291,500	8,250	77,000	110,000	96,250
		県 債	226,500	6,400	59,800	85,500	74,800
その他							
一般財源		12,000	350	3,200	4,500	3,950	
事業内容			詳細設計	・建物調査 ・用地補償	・用地補償	・用地補償 ・歩道工事	
調査経緯	平成19年度 道路予備設計						
上位計画での位置付け	あきた21総合計画「第4期実施計画」における「安全・安心な地域づくりの推進」を支援する事業である。						
関連プロジェクト等	市町村合併支援						
事業を取り巻く情勢の変化	当該箇所のH8~H18までの事故件数は16件と多発しており、平成15年に国土交通省から事故危険箇所に指定されている。						
事業効率把握の手法	指標名	歩道整備率					
	指標式	実績延長/道路延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無		有 無	
	目標値 a	38 %		データ等の出典	道路課調べ		
	達成値 b	37 %					
	達成率 b/a	97 %		把握の時期	平成21年 4月		

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当該箇所は通学路として小学校児童23人、中学生徒23人、高校生徒22人が利用し、また、太田支所、郵便局等の公共施設の利用者と合わせ1日あたり150人程度と多くの歩行者、自転車が利用しており、前後の歩道設置済み区間との連続性を確保し、歩行者等の安全を確保するため歩道の設置が必要である。 交差点部での事故件数が多く右折レーン設置による交差点の拡幅が必要である。	35 点
緊 急 性	当該箇所のH8～H18の事故件数は16件となっており、事故状況は車両相互の出会い頭の事故が大半であるが、交通量の多くなる朝の時間帯は、小、中、高校生の通学時間帯と重なり、車道幅員5.5mと狭隘であり、子供たちが事故に巻き込まれる可能性が高く、大変危険な状態となっているため、緊急な整備を地元から要望されている。 (自動車交通量6,486台/日、大型車混入率8%、事故率162件/億台km)	10 点
有 効 性	当該箇所は小学校の通学路指定であるほか、公共施設として市役所太田総合支所、郵便局等があるが、歩道が整備されておらず、自動車交通量が多く車道も狭隘なため、児童等が危険な状態にさらされているため、車道と歩道を分離することによる、歩行者の安全確保の有効性は高い。 交差点部の拡幅により出会い頭の事故等の削減に高い効果が見込まれる。	15 点
効 率 性	前後の歩道が整備されており、地元自治会から歩道整備を強く要望され、事業に協力的であるため、5年以内に供用開始が可能であり、効果の出現が早い。 側溝を歩道内に設置すること、および交差点の右折レーンの長さを縮小しコスト縮減を図っている。	10 点
熟 度	平成19年に歩道設置・交差点改良等の早期実施について、県道隣接関係者一同から要望書が提出されている。 平成9年に角館六郷線整備促進協議会(構成員=関係旧5町の町長)から早期整備について要望がなされている。	15 点
判 定	ランク ()	85 点
	判定ランク であり、評価点も85点と高く、早急に事業を実施すべきと考える。	
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 評価結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定 改善して選定 保留
	当該整備区間は、小学校の通学路指定路線にもなっているが、交通量が多い上に幅員が狭小で、歩道も設置されておらず、歩行者の安全に支障をきたしている状況にある。当該区間の前後の歩道は既に設置済みであり、歩行者の安全確保の観点から、交差点の部分改修を含めた本事業の必要性及び緊急性はともに高く、事業の実施は妥当と判断される。

4. 財政課長意見

意見内容	選定 改善して選定 保留
	当該区間は、周辺に位置する小学校への通学路指定路線で、交通量が多く、幅員の狭小、歩道の未整備により改良の必要性があり、当事業の実施は妥当と考える。

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定 改善して選定 保留
	事業の実施は妥当である。

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所評価
 適用基準名 交通安全事業（歩道）

事業コード(H21-建-新-02)
 箇所名 (大仙市太田町太田字伊勢堂)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	1 2 時間自動車交通量	4,000台/日以上	10	10		
		1,000台/日以上	5			
		1,000台/日未満	0			
	歩行者交通量	100人/日以上	10	10		通学路以外の場合
		100人/日未満	5			通学路の場合
		学童・園児 40人/日以上 学童・園児 40人/日未満	5			
	歩道の連続性	計画区間前後に歩道あり	10	10		
		計画区間前後の一方に歩道あり	5			
		計画区間前後に歩道なし	0			
	道路線形の修正 (視距の確保等)	有り	5	5		
無し		0				
計			35	35		
緊急性	関連事業の有無	有り	5	5		
		無し	0			
	事故状況(過去5カ年) 死傷事故 事故件数	歩行者の死傷事故あり	10	0		
		歩行者の死傷事故なし	0			
		6件以上 1~5件 なし	5 5 0			
計			25	10		
有効性	交通安全指定道路	有り	5	5		
		無し	0			
	通学路指定	有り	5	5		
		無し	0			
	公共施設	有り	5	5		
無し		0				
計			15	15		
効率性	供用開始までの期日	5年以内に供用開始が可能であり、効果の出現が早い	10	10		
		供用開始まで6年から7年の時間を要する	5			
		供用開始まで8年以上と相当時間を要する	0			
計			10	10		
熟度	地元の協力体制	事業に協力的	10	10		
		用地反対等の問題あり	0			
	市町村の参画	要望書提出済み	5	5		
		要望書は未提出	0			
計			15	15		
合計			100	85		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		